

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">生理解剖学 B</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">人間人社 1 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">片山 洋子</p>																														
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">呼吸と循環系、脳と神経系、消火器と泌尿器系、内分泌や免疫系、感覚器系の生理学を展開</p>																																
<p>授業の概要と目標</p> <p>身体の機能を知るためには、構造の理解が必要であり、その相互の関係について講義する。身体の構造と機能はスポーツ指導者や保健体育教員に必須の基礎知識である。スポーツ生理学やスポーツバイオメカニクス、スポーツ生化学などに発展する。前期のみの履修ではなく、A・B 両方を学ぶことを勧めたい。前期は主に骨格の機能解剖と筋の生理学を中心に扱う。後期は呼吸と循環器系、脳や神経系、免疫系、それに消化と吸収がそのテーマとなる。</p>																																
<p>評価方法</p> <p style="text-align: center;">出席状況と試験で評価 試験は前半と後半で 2 回実施し総合評価する</p>																																
<p>テキスト</p> <p style="text-align: center;">図解 栄養生理学・生化学 健康運動指導士養成講習会テキスト</p>	<p>著者</p> <p style="text-align: center;">片山真之、片山洋子 健康・体づくり事業財団</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">産業図書 社会保険研究所</p>																														
<p>参考書</p> <p style="text-align: center;">解剖生理学</p>	<p>著者</p> <p style="text-align: center;">片山洋子編</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">朝倉書店</p>																														
<p>授業スケジュール・内容</p> <p style="text-align: center;">後期：生理学を中心に</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1：呼吸器官の構造と機能①</td> <td>呼吸器官、呼吸運動</td> </tr> <tr> <td>2：呼吸器官の構造と機能②</td> <td>換気量と肺換気量、肺でのガス交換</td> </tr> <tr> <td>3：心臓血管系の構造と機能①</td> <td>心臓の構造、心拍数、1 回拍出量、心周期</td> </tr> <tr> <td>4：心臓血管系の構造と機能②</td> <td>血管系の構造と血液循環、体循環</td> </tr> <tr> <td>5：心臓血管系の構造と機能③</td> <td>血流、血管抵抗、血圧調節（中枢性と末梢性）</td> </tr> <tr> <td>6：神経系の構造</td> <td>ニューロン、運動単位、中枢神経系と末梢神経系</td> </tr> <tr> <td>7：脳の構造と機能①</td> <td>脳の区分、脊髄の区分</td> </tr> <tr> <td>8：脳の構造と機能②</td> <td>脳の運動中枢、運動経路</td> </tr> <tr> <td>9：試験①</td> <td>呼吸と循環、神経と脳を範囲として</td> </tr> <tr> <td>10：内分泌系の概要</td> <td>内分泌の基礎知識、運動時のホルモン分泌動態</td> </tr> <tr> <td>11：免疫系の概要</td> <td>免疫系の概要、体力と感染リスクの関連、運動が免疫能に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>12：消化器の概要</td> <td>胃、小腸、大腸、肝臓でなに行われているか</td> </tr> <tr> <td>13：泌尿器概要</td> <td>泌尿器官でなに行われているか</td> </tr> <tr> <td>14：感覚器の概要</td> <td>視覚、聴覚、臭覚から情報を取り入れる</td> </tr> <tr> <td>15：試験②</td> <td>内分泌、免疫、消火器・泌尿器、感覚器を範囲として</td> </tr> </table>			1：呼吸器官の構造と機能①	呼吸器官、呼吸運動	2：呼吸器官の構造と機能②	換気量と肺換気量、肺でのガス交換	3：心臓血管系の構造と機能①	心臓の構造、心拍数、1 回拍出量、心周期	4：心臓血管系の構造と機能②	血管系の構造と血液循環、体循環	5：心臓血管系の構造と機能③	血流、血管抵抗、血圧調節（中枢性と末梢性）	6：神経系の構造	ニューロン、運動単位、中枢神経系と末梢神経系	7：脳の構造と機能①	脳の区分、脊髄の区分	8：脳の構造と機能②	脳の運動中枢、運動経路	9：試験①	呼吸と循環、神経と脳を範囲として	10：内分泌系の概要	内分泌の基礎知識、運動時のホルモン分泌動態	11：免疫系の概要	免疫系の概要、体力と感染リスクの関連、運動が免疫能に及ぼす影響	12：消化器の概要	胃、小腸、大腸、肝臓でなに行われているか	13：泌尿器概要	泌尿器官でなに行われているか	14：感覚器の概要	視覚、聴覚、臭覚から情報を取り入れる	15：試験②	内分泌、免疫、消火器・泌尿器、感覚器を範囲として
1：呼吸器官の構造と機能①	呼吸器官、呼吸運動																															
2：呼吸器官の構造と機能②	換気量と肺換気量、肺でのガス交換																															
3：心臓血管系の構造と機能①	心臓の構造、心拍数、1 回拍出量、心周期																															
4：心臓血管系の構造と機能②	血管系の構造と血液循環、体循環																															
5：心臓血管系の構造と機能③	血流、血管抵抗、血圧調節（中枢性と末梢性）																															
6：神経系の構造	ニューロン、運動単位、中枢神経系と末梢神経系																															
7：脳の構造と機能①	脳の区分、脊髄の区分																															
8：脳の構造と機能②	脳の運動中枢、運動経路																															
9：試験①	呼吸と循環、神経と脳を範囲として																															
10：内分泌系の概要	内分泌の基礎知識、運動時のホルモン分泌動態																															
11：免疫系の概要	免疫系の概要、体力と感染リスクの関連、運動が免疫能に及ぼす影響																															
12：消化器の概要	胃、小腸、大腸、肝臓でなに行われているか																															
13：泌尿器概要	泌尿器官でなに行われているか																															
14：感覚器の概要	視覚、聴覚、臭覚から情報を取り入れる																															
15：試験②	内分泌、免疫、消火器・泌尿器、感覚器を範囲として																															